

## ◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が559例(男性278例(10歳代19例, 20歳代107例, 30歳代55例, 40歳代26例, 50歳代15例, 60歳代17例, 70歳代13例, 80歳代15例, 90歳代1例, 年齢非公開10例), 女性268例(10歳代16例, 20歳代83例, 30歳代36例, 40歳代28例, 50歳代32例, 60歳代13例, 70歳代19例, 80歳代21例, 90歳代14例, 年齢非公開6例), 性別及び年齢非公開13例)あり, 本年の累積報告数は578例になりました。  
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。  
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- A型肝炎の報告が1例(20歳代女性)あり, 症状は全身倦怠感, 発熱, 食欲不振, 黄疸等です。感染地域は国外, 感染経路は経口感染です。本年初めての報告例です。
- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(50歳代男性)(第52週追加報告分)ありました。症状は発熱, 呼吸困難, 意識障害等です。本年初めての報告例です。
- インフルエンザは, 市内69の定点医療機関からの報告はありませんでした。全国でも報告数は極めて少なく(定点医療機関数約5,000から50例の報告), 現在のところ流行の兆候はありません。  
京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。  
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

## ◆ 今週のトピックス: <梅毒>

2021年, 本市において梅毒は78例報告され, 1999年の感染症法施行以降最高となりました。全国でも報告数は7,873例と最高になり, 人口10万人あたり約6.3人が梅毒に感染したと推定されます(京都市は人口10万人あたり約5.4人)。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 3例(肺結核 なし, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし)  
【1月以降の累積報告数 3例(肺結核 なし, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし】
- 新型コロナウイルス感染症 559例【1月以降の累積報告数578例】
- 四類:A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 1例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

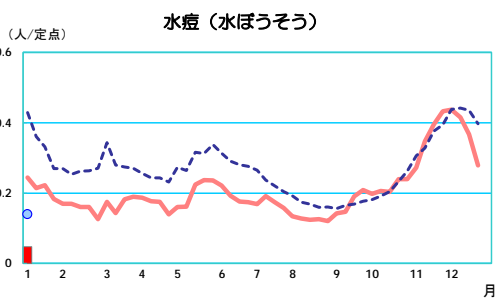
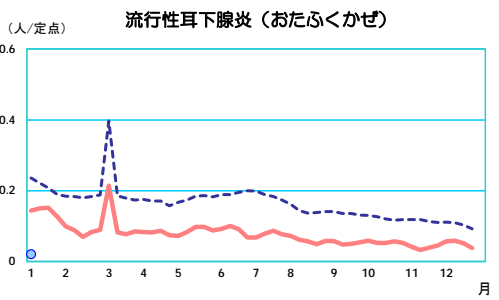
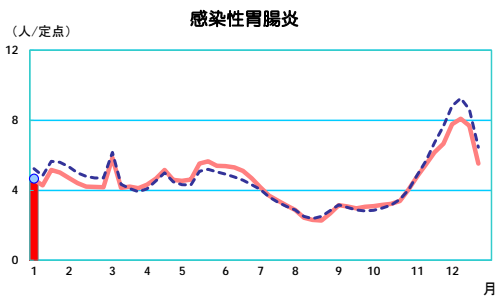
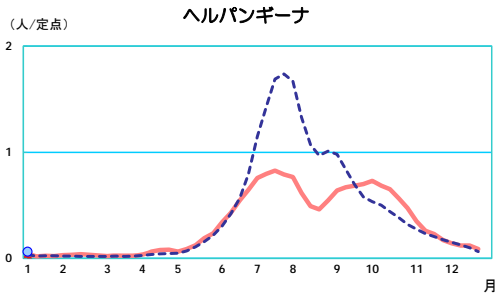
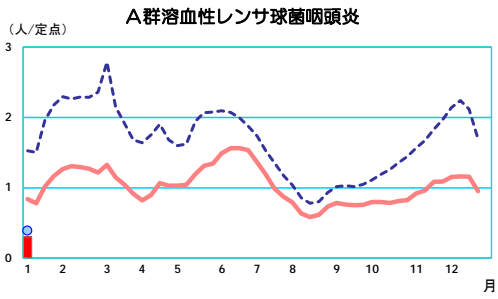
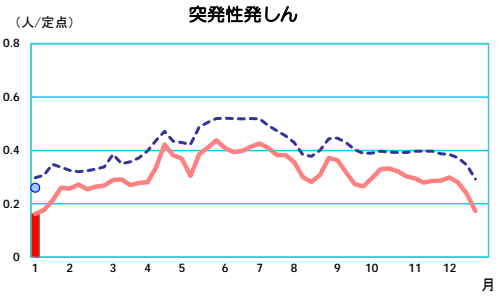
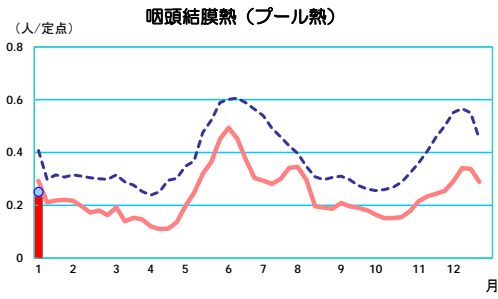
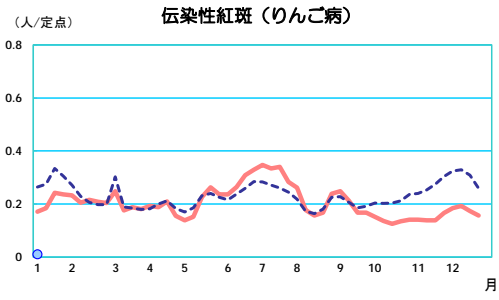
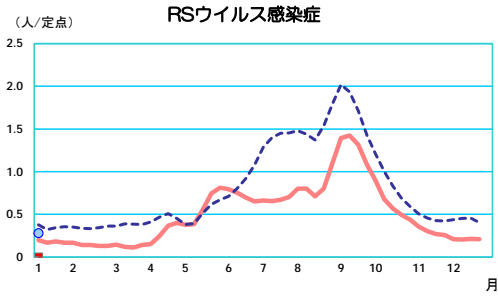
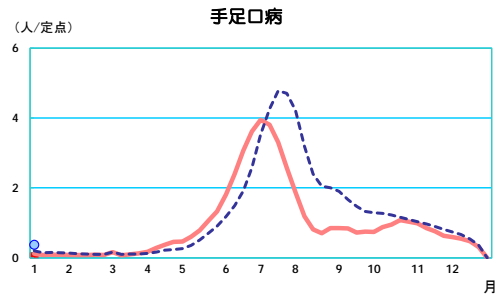
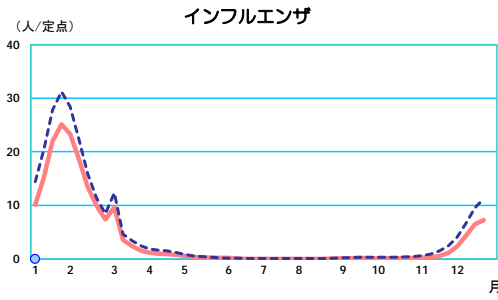
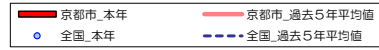
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.47	192
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.30	13
	③ 咽頭結膜熱	0.23	10
	④ 突発性発しん	0.16	7
	⑤ 手足口病	0.14	6
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

### 【次ページ以降の主な内容】

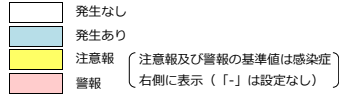
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <梅毒>  
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは, 2022年1月12日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。  
\* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

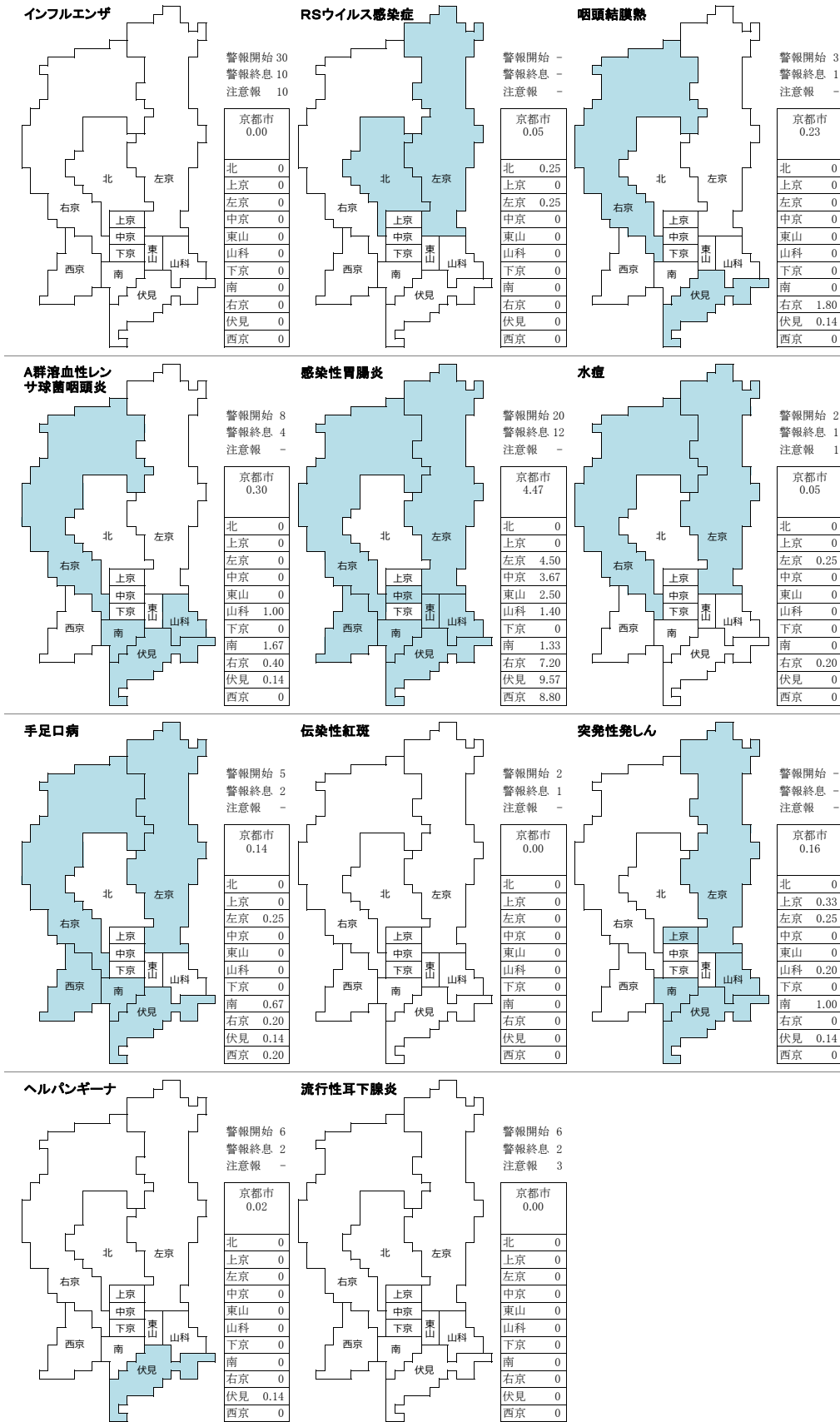
インフルエンザ<sup>※</sup>及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2022年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2022年第1週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



## 第1週(1月3日～1月9日) トピックス:&lt;梅毒&gt;

2021年、本市において梅毒は78例報告され、1999年の感染症法\*施行以降最高となりました。全国でも報告数は7,873例と最高になり、人口10万人あたり約6.3人が梅毒に感染したと推定されます(京都市は人口10万人あたり約5.4人)。本市と全国の梅毒の推移をみると、2010年代前半までほぼ一定で推移してきましたが、2010年代後半から爆発的に増加しました(図1, 2)。その後、2020年にはやや減少していましたが、2021年には急増しています。

本市の報告例を性別・年齢階級別に見ると、男性は20～50歳代と幅広い年齢層に広がっており、全体的に女性に比べ男性が多く、総報告数の男女比もおおよそ6:4となっています。一方、女性は20～40歳代と比較的若年齢層に集中しており、特に20歳代では男性より多くなっています(図3)。感染経路についてみると、全体の3/4以上が異性間の性的接触でした(図4)。

梅毒の原因は梅毒トレポネーマ(*Treponema pallidum*)という螺旋菌で、コルク抜きに似た細長い螺旋状の細菌です。その亜種のひとつである*T. pallidum* subsp. *pallidum*のみが梅毒を引き起こし、その他の亜種はフランベジアなどの性感染症ではないトレポネーマ感染症の原因となります。トレポネーマは人工培地での培養ができないため、詳しい生態は分かっていません。

梅毒の感染経路は主に性的接触で、性器や口、肛門の粘膜または皮膚を介して感染します。他に、輸血または血液製剤の投与によって感染することや、妊婦が感染した場合に胎盤を通じて胎児に感染すること(先天梅毒)もありますが、現在の日本ではどちらも稀になっています。

感染後3～6週間は潜伏期であり症状はありませんが、その後、様々な症状が徐々に現れます。初期(早期顕症I期)には感染した部位に硬いしこり(初期硬結)ができ、やがて崩れて潰瘍になります(硬性下疳)。現在の日本ではほとんど見られませんが、同じように陰部に潰瘍ができる「軟性下疳」という別の性感染症があるため「硬性」下疳と呼ばれます。硬性下疳は潰瘍が比較的硬く、痛みはないことが多いのが特徴です(軟性下疳は硬性下疳よりも柔らかく、痛みが非常に強いのが特徴です。なお「下疳」とは陰部にできる潰瘍のことを指します)。

治療せずともこれらの症状は一旦治まりますが、それから症状は血流を介して全身に広まります。4～10週間の潜伏期の後、全身の皮膚に発疹や膿疱、白斑、桃色の痣(バラ疹)ができたり、脱毛したりします(早期顕症II期)。そのまま治療せず放っておくと、数年で様々な部位にゴムのよう硬いしこり(ゴム腫)ができるようになり、さらに十年以上の長い時間をかけて血管系や中枢神経系が侵され、最終的には死に至ります(晩期顕症)。

梅毒は早期に発見できれば抗生剤で治療できますが、症状が治まったりぶり返したりを繰り返すため、治ったと勘違いして治療が遅れてしまうことがあります。また、感染してから治療が終わっても、ヒトは梅毒に対して有効な免疫を得られないため、再感染を予防できません。また、梅毒のワクチンはありませんが、コンドームの使用はある程度感染を予防できると言われています。しかし完全に予防できるわけではないので、皮膚や粘膜に異常があるときは性行為を控えることが重要です。

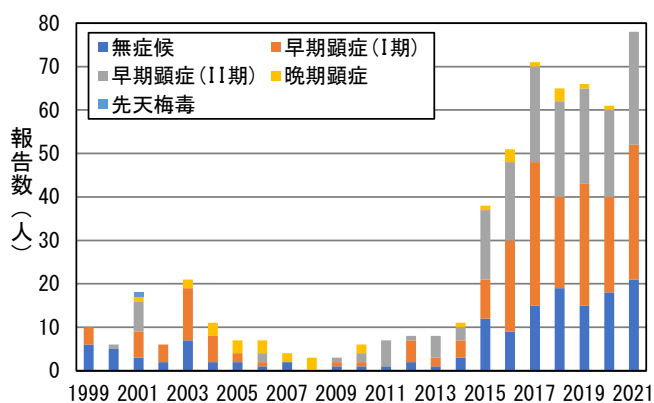
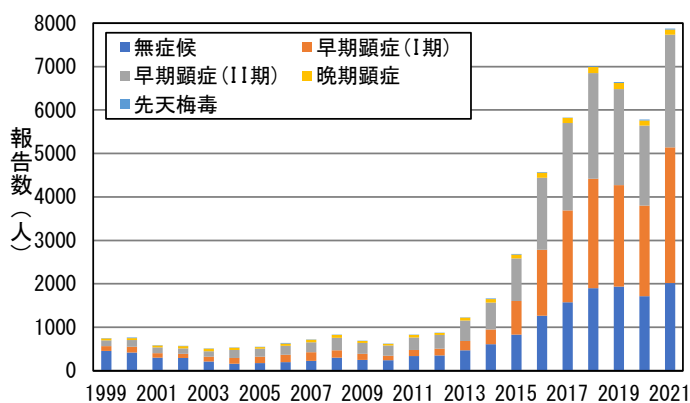
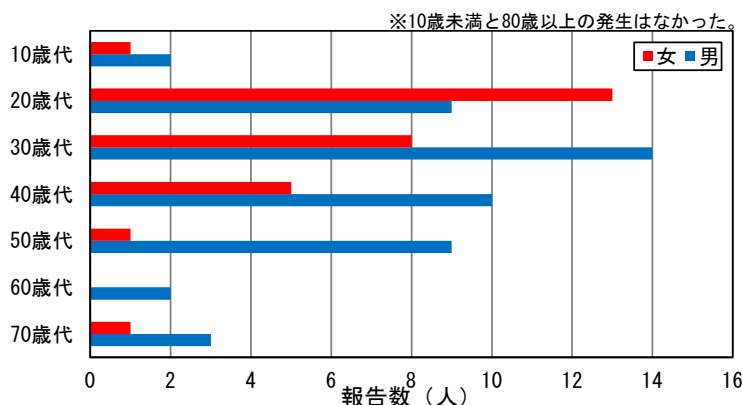
図1. 京都市における梅毒報告数の推移<sup>§</sup>図2. 全国における梅毒報告数の推移<sup>#</sup>

図3. 京都市の性別・年齢階級別梅毒報告数(2021年)

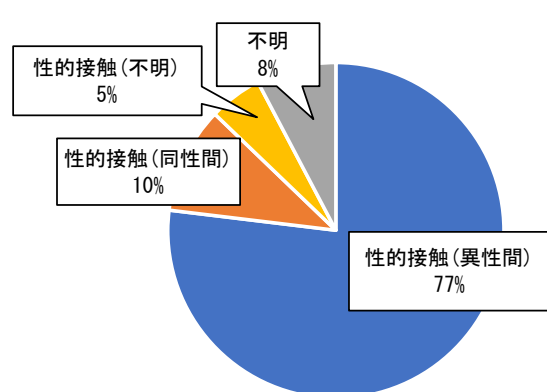


図4. 京都市の梅毒の感染経路(2021年)

【参考文献】以下のウェブサイトの情報を基に作成した(2022年1月13日閲覧)。  
 ○国立感染症研究所「梅毒とは」  
 ( <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/465-syphilis-info.html> )

(\*)感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律  
 (§)1999年及び2002年～2005年は早期顕症を区別していないため、便宜上I期として表している。  
 (#)1999年は4月～12月の報告数である。

T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第1週

疾病,行政区別報告数

2022年1月3日～2022年1月9日

データ入手日:2022年1月12日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	1	-	-	18	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	5	7	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	5	4	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	9	2	36	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	1	1	67	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	-	44	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	2	10	13	192	2	6	-	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	0.25	-	-	4.50	0.25	0.25	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	3.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	2.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	1.00	1.40	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	1.67	1.33	-	0.67	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	1.80	0.40	7.20	0.20	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	0.14	0.14	9.57	-	0.14	-	0.14	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	-	8.80	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	0.05	0.23	0.30	4.47	0.05	0.14	-	0.16	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

# 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第1週

年齢階級, 疾病別報告数

2022年1月3日～2022年1月9日

データ入手日:2022年1月12日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		10	-	-	5	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		13	-	-	3	-	1	-	-	1	1	-	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		192	5	13	27	35	27	20	9	5	6	4	3	16	3	19	-	-	-	-	-	-
水痘		2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		6	-	-	2	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		7	1	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.05	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.23	-	-	0.12	0.05	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.30	-	-	0.07	-	0.02	-	0.02	0.02	-	-	-	0.12	-	0.05	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		4.47	0.12	0.30	0.63	0.81	0.63	0.47	0.21	0.12	0.14	0.09	0.07	0.37	0.07	0.44	-	-	-	-	-	-
水痘		0.05	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.14	-	-	0.05	0.05	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.16	0.02	0.05	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。



T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第1週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2022年1月12日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	-	1	-	-
RSウイルス感染症	1	-	-	1	4	2
咽頭結膜熱	4	7	7	10	4	10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	15	9	19	5	13
感染性胃腸炎	323	390	443	452	176	192
水痘	11	5	4	-	6	2
手足口病	88	70	83	60	24	6
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	12	10	9	9	5	7
ヘルパンギーナ	22	6	6	13	9	1
流行性耳下腺炎	-	3	1	1	2	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	1	2	2	2	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	476	507	564	568	237	233

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	-	0.01	-	-
RSウイルス感染症	0.02	-	-	0.02	0.09	0.05
咽頭結膜熱	0.09	0.16	0.16	0.23	0.09	0.23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.35	0.35	0.21	0.44	0.12	0.30
感染性胃腸炎	7.51	9.07	10.30	10.51	4.09	4.47
水痘	0.26	0.12	0.09	-	0.14	0.05
手足口病	2.05	1.63	1.93	1.40	0.56	0.14
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	0.28	0.23	0.21	0.21	0.12	0.16
ヘルパンギーナ	0.51	0.14	0.14	0.30	0.21	0.02
流行性耳下腺炎	-	0.07	0.02	0.02	0.05	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.10	0.20	0.20	0.20	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	11.07	11.87	13.27	13.35	5.67	5.42

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。